

## 4.学際的・国際的な学びを育てる教育環境

### 1)学部学生の国際化への支援

#### (1) トビタテ!留学 JAPAN および長期留学希望者への応募支援

文部科学省が、グローバル人材育成施策の一環として行う「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」は令和5年度派遣留学生の募集を2年ぶりに実施することになり、看護学部2回生1名の応募希望者に対し相談対応した。また、エルムズ大学への長期留学希望者の個別相談を実施した。

#### (2) インドネシア ガジャマダ大学からの短期研修受け入れ

ガジャマダ大学と看護学部は2013年に交流協定を締結し、毎年学生の受入や派遣を行っている。令和4年度はCOVID-19感染拡大により中止となった。

#### (3) 異文化理解看護フィールドワーク開講とインドネシアへの短期派遣研修

令和2年度から、インドネシアへの短期派遣研修を事前学習・フィールドワーク・事後学習として単位化することとなったが、令和4年度はCOVID-19感染拡大により講座開講および短期派遣研修は中止となった。異文化理解看護フィールドワーク受講は2回生1名および1回生4名であり、1回生は令和5年度の海外派遣研修参加を希望しており、本年度は来年度に向けて、看護英語の勉強会および英語でのプレゼンテーション資料作成を行った。

#### (4) 弘光科技大学

令和5年度夏休みに実施される弘光科技大学 Summer Program の募集(募集人数2名、募集締切令和5年3月10日)について、令和5年度に3回生になる学生にメールで参加を呼びかけた。

#### (5) トロント大学 (カナダ)

本年度、新たにトロント大学 (カナダ) が提供する International Program 導入を検討することになった。本年度は試験的に、トロント大学担当者が来高しての永国寺キャンパスでのワークショップ(令和4年11月15日火曜3,4限)およびオンラインプログラム(令和5年3月6日～10日1日3時間×5日)が実施された。授業の関係でワークショップ参加が出来なかった看護学部2回生2名について、オンラインプログラムに参加できるよう調整した。

### 2)大学院生への支援

本年度も COVID-19 感染拡大は大学院教育にも深刻な影響をもたらした。本学学生の国外留学または海外協定校からの学生受け入れが未だ制限される中で、国際的な学習機会が著しく制限されることになった。その中でも、学術集会への遠隔参加を通してガジャマダ大学(インドネシア)との教員・大学院生の交流がなされた。また、水際対策の一環としての新規外国人入国制限の方針によって来日ができなくなった令和3年度入学の留学生は、本年度来日することができ、前期課程を修了した。また、博士前期課程研究コースの学生を対象に行った国際学会の投稿を目的としたアカデミック・ライティングの特別講義が効果を上げ、2名が在学中に東アジア看護学研究者フォーラム(EFONS)へ投稿し採択された。

#### (1) インドネシア・ガジャマダ大学

The Departments of Nursing, Faculty of Medicine, Public Health, and Nursing, Universitas Gadjah Mada が中心となり、本学ならびに Anglia Ruskin University (United Kingdom)、神戸大学 (Japan)、Taipei Medical University (Taiwan)、Mahidol University (Thailand)などの大学が共同して“Bringing Innovation to Strengthen Society for Resilience and Sustainable Healthcare System”をテーマとした The 4th International Joint Conference on Nursing Science (IJCNS) が令和4年10月25-26日に開催された。医療の現場における看護職やその他の医療専門家の育成の重要性について、レジリエンスと持

続可能性を高めるためのイノベーションの共有と意見交換が行われた。本学からは、木下真里教授がカンファレンススピーカーとして登壇、中井あい助教がポスター発表、その他教員6名、大学院生9名が参加した。

## (2) 留学生に対する支援

水際対策の一環としての新規外国人入国制限の方針によって来日ができなくなった令和3年度入学の留学生は、本年度来日することができた。当該留学生は、入国できなかった約1年間は遠隔で授業を実施したことにより、対面と同様の教育効果を挙げることができた。また、本年度来日後は、さくら寮への入寮等生活上の援助、および、学修援助について、担当する教職員が個別の対応を行った。修士論文は、新型コロナウイルス感染症パンデミックによる医療機関の深刻な人員不足に対して、インドネシア政府が行った、新卒看護師の最前線への配置という画期的な政策が、現場の看護師の業務負担を増加させたのではないかという問いを明らかにする目的で、インドネシアの病院をフィールドに実施された。その結果、現場の看護師の労働時間がパンデミック前後で著しく増加していることが確認された。この研究は、テーマの選定や国内外の文献の検討などの視点が評価された。当留学生は、2年間の在学中で、所定の単位を獲得し修了した。

## (3) 大学院生の国際学会への参加を促す取り組み

本年度は、大学院生にも、遠隔などを利用し再開されはじめた学術集会への参加を通して国際的な交流を促す取り組みを行った。

その一つとして、『海外投稿のためのアカデミック・ライティング』と題し、3回シリーズにて、Hyeon J Lee 講師による国際学会への投稿を目指した特別講義を実施した。1回目(R4/07/14)は「Research Paper Writing」について、2回目(R4/07/21)は「Summarizing: Its Importance, Types, and Process」、3回目(R4/07/28)は「Abstract writing & Writing for Conference」について、英語にて、演習をまじえた特別講義が実施された。平日開催であったことと、高度実践看護師コースの学生はすでに実習が開始されていたこともあり、博士前期課程研究コース1・2回生を中心に11名が参加した講義となった。英語での講義であったが、演習を行いながらの講義であったこと、また、Lee 講師が学生の反応をみながら日本語を交えて講義してくれたこと、学生同士で話された内容を確認しながら講義を受講できていたことなどにより、学生は内容を十分に理解できていた。また、国際学会への投稿に挑戦してみようという意識も高まったようで、参加者の2名がさらにLee 講師のコンサルテーションを受け、在学中に東アジア看護学研究者フォーラム(EFONS)へ投稿し採択されている。

また、前述したように The Departments of Nursing, Faculty of Medicine, Public Health, and Nursing, Universitas Gadjah Mada が中心となり、本学ならびに Anglia Ruskin University (United Kingdom)、神戸大学 (Japan)、Taipei Medical University (Taiwan)、Mahidol University (Thailand)などの大学が共同して“Bringing Innovation to Strengthen Society for Resilience and Sustainable Healthcare System”をテーマとした The 4th International Joint Conference on Nursing Science (IJCNS) が令和4年10月25-26日に開催された。大学院生に積極的な参加を促すアナウンスを行ったところ、9名が参加した。その他、令和5年3月9日、10日に実施された EFONS にも参加を促し、2名が発表を行った。